

毎金曜夜7時
市民館3階
夜間学校

みんなで つくろう
みんなの 会館
三人よれば 何とかの知恵

夜間学校 ニユース

泉は苦の種 苦は泉の種

仕事？ 四・五年は大丈夫の

声もあるがサテ...

先週(先週)の夜間学校(夜間学校) ニユース
には大々(大々)コンボがあった。
みんな(みんな)で仕事(仕事)が今後(今後)どれ
くらい(くらい)であるか(であるか) という(という)話(話)
をして(して)いる(いる)とき(とき)に(に)一人(一人)が今(今)
年は(年は)八(八)年(年)で(で)す(す)わ(わ)い(い)な(な)い(い)と(と)
いつ(いつ)た(た)ま(ま)わ(わ)り(り)が(が)ぞ(ぞ)ん(ん)な(な)に(に)
と(と)は(は)な(な)い(い)と(と)い(い)う(う)こ(こ)と(と)を(を)
ニユース(ニユース)は(は)八(八)年(年)に(に)な(な)っ(っ)て(て)
ま(ま)す(す)よ(よ)...

と(と)確(確)かに(かに)言(言)わ(わ)れ(れ)て(て)い(い)た(た)が(が)
正(正)しく(しく)は(は)一(一)九(九)八(八)六(六)年(年)。
こ(こ)の(この)か(か)し(し)二(二)の(の)間(間)置(置)い(い)ま(ま)
の(の)す(す)こ(こ)と(と)深(深)い(い)意(意)味(味)の(の)あ(あ)る(る)問(問)
題(題)に(に)な(な)る(る)の(の)で(で)す(す)。
仕事(仕事)量(量)の(の)減(減)少(少)を(を)し(し)て(て)い(い)る(る)時(時)
に(に)一(一)階(階)の(の)空(空)室(室)を(を)使(使)用(用)し(し)て(て)
都(都)市(市)の(の)勤(勤)労(労)が(が)あ(あ)る(る)か(か)ら(ら)二(二)
三(三)四(四)五(五)年(年)は(は)大(大)丈(丈)夫(夫)の(の)仕(仕)事(事)
は(は)あ(あ)る(る)と(と)い(い)う(う)仲(仲)論(論)が(が)い(い)た(た)。
本(本)当(当)に(に)さ(さ)う(う)だ(だ)ら(ら)う(う)か(か)...

もし(もし)そ(そ)う(う)だ(だ)と(と)し(し)て(て)も(も)、
その(その)先(先)は(は)ど(ど)う(う)な(な)る(る)か(か)。
下(下)博(博)景(景)気(気)の(の)後(後)の(の)落(落)ち(ち)込(込)み(み)
と(と)し(し)て(て)一(一)一(一)一(一)二(二)年(年)と(と)結(結)
いた(いた)春(春)の(の)落(落)ち(ち)込(込)み(み)、そ(そ)れ(れ)ら
を(を)ま(ま)だ(だ)覚(覚)え(え)て(て)い(い)る(る)は(は)す(す)た(た)
な(な)ら(ら)ず(ず)に(に)仕(仕)事(事)を(を)増(増)え(え)る(る)こ
と(と)に(に)あ(あ)ら(ら)う(う)た(た)け(け)、本(本)当(当)に(に)仕(仕)
事(事)は(は)増(増)え(え)る(る)の(の)だ(だ)ら(ら)う(う)か(か)。
仕事(仕事)が(が)な(な)く(く)な(な)った(た)時(時)に(に)職(職)
場(場)に(に)あ(あ)ら(ら)う(う)た(た)け(け)の(の)強(強)さ(さ)は(は)ど
う(う)な(な)る(る)の(の)か(か)、十(十)年(年)・二(二)十(十)年(年)
と(と)ま(ま)た(た)大(大)量(量)の(の)離(離)職(職)者(者)を(を)
こ(こ)の(この)波(波)を(を)ま(ま)ぎ(ぎ)ら(ら)せ(せ)る(る)
の(の)で(で)は(は)な(な)ら(ら)ず(ず)か(か)...

四(四)・五(五)年(年)先(先)に(に)、ア(ア)ナ(ナ)タ
は(は)何(何)才(才)に(に)な(な)っ(っ)て(て)い(い)る(る)の(の)か(か)。
あ(あ)り(り)り(り)ん(ん)職(職)安(安)は(は)一(一)切(切)に(に)
に(に)押(押)す(す)業(業)者(者)の(の)印(印)を(を)統(統)一(一)し(し)
て(て)管(管)理(理)し(し)や(や)す(す)く(く)し(し)、そ(そ)の
業(業)者(者)か(か)ら(ら)半(半)導(導)的(的)に(に)仕(仕)事(事)
を(を)し(し)て(て)い(い)る(る)者(者)の(の)手(手)帳(帳)を(を)
の(の)根(根)拠(拠)に(に)つ(つ)と(と)め(め)て(て)い(い)る(る)。
仕事(仕事)が(が)長(長)期(期)に(に)無(無)い(い)時(時)の
必(必)要(要)を(を)見(見)る(る)側(側)面(面)も(も)あ(あ)る(る)や
ら(ら)ず(ず)、印(印)を(を)ま(ま)つ(つ)た(た)く(く)な(な)ら(ら)
ず(ず)に(に)一(一)行(行)政(政)は(は)そ(そ)の(の)見(見)
か(か)え(え)り(り)た(た)、最(最)後(後)段(段)で(で)も
い(い)い(い)か(か)ら(ら)仕(仕)事(事)件(件)簿(簿)を(を)し(し)て(て)
く(く)れ(れ)る(る)だ(だ)ら(ら)う(う)か(か)。
自(自)己(己)の(の)安(安)を(を)と(と)ら(ら)わ(わ)れ(れ)て(て)い(い)
て(て)い(い)い(い)の(の)だ(だ)ら(ら)う(う)か(か)...

在日朝鮮人、韓国人の 指紋押なつ拒否断固支持！ 定住外国人に市民権を

85 12/9 2/130 釜ヶ崎現地調査に参加して

水野松男

「実調」の一泊二日を終え、考
えさせられたことは、釜ヶ崎差
別」ということでした。

今回、プログラムの中で、釜
ヶ崎の外での日雇労働者に対す
る意識の一端にふれ得る機会が
ありました。特に、飯場の移転
に反対する立て看板は、日雇
労働者に対する社会的差別意
識を示すものでした。

「我々の町をスラム化から
守ろう。...」の独身労働者専用
宿舎建設反対。...環境を守る
会。

「このように、我々の町をスラ
ム化から守る」という排外的な
思想は、現在の中流意識といわ
れるもの、そのものの中に過剰
能力、生産力向上を要する私利

害追求。生活保守主義。団結主
義がつけられられていると思いま
す。

また、「独身労働者」といわ
げで善く思想には、家内安全主
義と日雇労働者に対する差別
意識が満ちています。

これらの意識が、この冬見た
釜ヶ崎での、福祉の切り捨てと
里親化の状況つまり、福祉と
いう名の「殺人行政」の下で虐
殺されていく何百名もの労働者
の状況やテレビ、カメラと前線
した機動隊による釜ヶ崎の治安
維持体制を支えることに直結し
ていくのだと思います。

次回から、この釜ヶ崎差別
を掘り下げ得たらと思っていま
す。

先日、奈良県で下場の移転調
反対の立て看板を見る機会があ
りました。

「私達の町をスローガンと思っ
た、下場での労働に対する差
別観念と部落差別に基づく反対
運動が、今回の「実調」で見知っ
た「釜ヶ崎差別」の一端と通直
していることを、改めて考えさ
せられました。

私は、日本キリスト教団・部
落解放センターで実習をしてい
ます。キリスト教において部落
差別を克服するうえで、このわ
らも、釜ヶ崎差別と闘うこと
に参入していきたいと思えます。

自らの立場を忘れた者

二月十一日、夕方のテレビ、
ニュースを聞いて十画面は見て
いなかった。おどろいた。

姫路のキリスト教会で「建
国記念日」に反対する集會が
開かれていたところに、火災
ピンが投げ込まれたという。
投げたのは元右翼の土木作
業員だという。

釜日労は、今、右翼と闘
っている山谷争議団を全面的に
支援、共に闘っている。また
同じ日に京都や大阪、西宮で
開かれた「反天皇制集會」に
代表を送り、共に闘うことを
伝えていく。

釜にも、日雇労働者の中に
いろいろな仲間がいるが、
今、この時期に、自らの立場
を忘れ、我々を苦しめる側に
立つものが一人でもいること
は、くせしい限りだ。

天皇は我々をこいたげると
的に存在する、右翼はその手
先であることまでにあはれて